

はままつじょうはっくつつうしん
浜松城発掘通信

№9

浜松市文化財課 2019年12月23日

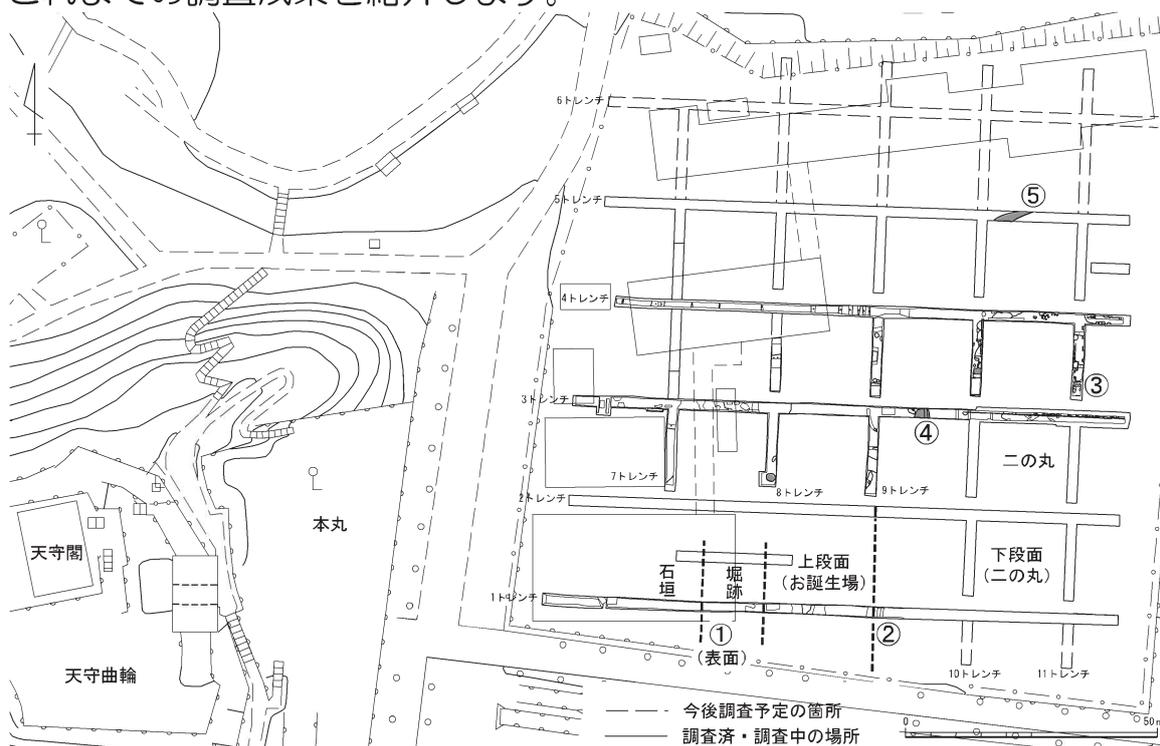
浜松城に関わる痕跡を確認しました。

旧元城小学校の敷地内には、浜松城に関わる石垣や堀、井戸、柱穴、礎石、瓦だまりなどの遺構や戦国時代から江戸時代にかけての土器や陶磁器が良好な状態で埋没していることを確認しました。



石垣と堀を確認（裏面①の位置） 本丸東側に構築された石垣と堀を確認しました。石垣はチャートの自然石を用いて造られています。堀の幅は約10mあり、深さは2m以上あります。

これまでの調査成果を紹介します。



②お誕生場と二の丸の境界にある段差を確認
敷地の東西で段差があることを確認しました。
上段面がお誕生場、下段面が二の丸にあたと捉えられます。



③礎石を確認
礎石の石材はチャートで、長軸80cm、短軸60cmの大きさです。



④(上)・⑤(下)瓦だまりを確認
江戸時代の瓦がまとまった状態で出土しました。二の丸外周部に瓦葺きの建物があったことがうかがえます。

浜松城の発掘調査は平日の午前8時30分から午後4時までの作業時間内において、敷地南西部の外側から作業状況を見学いただけます。作業内容によっては、安全確保のため見学いただけない場合があります。